

## 令和7年度医学部医学科卒業証書・学位記授与式を執り行いました

令和8年3月25日（水）、長崎大学医学部記念講堂にて、令和7年度医学部医学科卒業証書・学位記授与式が執り行われ、217名の卒業生が新たな門出を迎えました。

はじめに、池松学部長が卒業生一人ひとりに卒業証書・学位記を授与されました。

続いて、学業優秀者として澤本さん、浦野さん、後藤さんの3名がポンペ賞を、競技会で優秀な成績を挙げた者として原さんがポンペスポーツ賞を受賞し、池松学部長から賞状を、長崎医学同窓会長代理の森崎様から楯が授与されました。



卒業証書・学位記授与の様子



ポンペ賞の授与の様子

池松学部長は式辞として、「これから携わる医療が、理想通りに進むとは限らない中で、医師には、それでも病める人の前に踏みとどまる覚悟が問われる。医療とは、選び、その結果を引き受け続ける営みであり、この営みを支える覚悟を持って、医療の現場へ向かってほしい。」と、医師となる学生に対して激励の言葉を述べられました。

また、尾崎病院長より、新型コロナ禍の中で学びを開始した卒業生が、多くの制約にもかかわらず柔軟に学びを積み重ねてきた努力が称えられ、「入学時に語った熱い志を忘れず、医師としての人生を歩んでほしい。」との祝辞が贈られました。



式辞：池松学部長



祝辞：尾崎病院長

卒業生代表の澤本さんは答辞で、支えてくださった先生方、仲間、そして家族への感謝を述べられるとともに、長崎での学びや人との出会いが自身を成長させてくれたことを振り返られ、「一人ひとりの患者に真摯に向き合う医師を目指したい」と今後への強い決意を語られました。

式典の最後には、総代の荒木さんから記念品として「国家試験対策のための自主学習室用備品」が送られました。



答辞:澤本さん



記念品贈呈:荒木さん

長崎大学医学部医学科は、新たな第一歩を踏み出した卒業生の皆さまのご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

## 答辞

春の光がやわらかく差し込み、桜の蕾がほころび始めるこのよき日に、私たち卒業生のためにこのような温かい式を挙げていただき、心より感謝申し上げます。

ご臨席賜りました医学部長をはじめ諸先生方、ご来賓の皆様、そして私たちを支えてくださったご家族の皆様に、卒業生一同、深く御礼申し上げます。

私は学士編入として二年次から本学医学科に加わりました。見知らぬ土地で新しい学年に入る不安を抱えながら迎えた入学初日、解剖実習室で自己紹介をしたときの光景を、今でも鮮明に覚えています。あのときの緊張と期待が、今日に至る私の原点でした。

そして、私たちが医学生として歩み始めた頃、社会は新型コロナウイルス感染症のただ中でありました。学びの形も、人との関わり方も手探りの連続でしたが、そのなかで「医を志す」ということの意味を改めて考える時間にもなりました。

この五年間を振り返ると、決して平坦な道ではありませんでした。膨大な知識に向き合い、実習では自らの未熟さを痛感する日々でもありました。それでも仲間と励まし合いながら歩んだ日々は、一つひとつがかけがえのない経験でした。困難のなかにも新たな発見や喜びがあり、この年月は私たちを確かに成長させてくれたのだと感じています。

私は、編入前に在籍していた大学では社会学を専攻しておりました。当時は医療と社会学がこれほど深く結びついているとは想像もしておりませんでした。しかし、医学を学ぶ中で次第に、健康や病の背景には人々の暮らしや社会の在り方が密接に関わっていることを知り、これまでの学びが確かに今へとつながっているのだと実感いたしました。

また、県外から来た私にとって、長崎での生活は当初、すべてが新鮮で、期待とともにわずかに心細さを感じる日々でもありました。しかし、実習で出会った患者さんとの関わりや、方言交じりで温かく声をかけてくださる地域の方々、そして、ともに学んできた仲間たちの存在に励まされ、この街に少しずつ親しみを感じるようになりました。坂のある街並みや潮の香りにも、この場所で過ごした思い出が重なり、今では懐かしさすら覚えます。長崎と、ここで出会った人々を心から大切に思えるようになったことは、私の人生の大きな財産です。

この土地での学びと多くの方々との出会いを通じて、視野が広がり、自分では想像していなかった進路や生き方の可能性に気づかされました。医師としてどのように生きたいのか、その輪郭が少しずつ形を帯びていったのは、人とのつながり、そして支えてくださった先生方や仲間、家族のおかげです。多忙な日々の中でも、私たちの学びに心を向け、患者さんに寄り添う姿勢を、身をもって示してくださった先生方に、心より感謝申し上げます。

私たちは今、同じ志を胸に、それぞれの場所で医師としての第一歩を踏み出します。

まだ、未熟ではありますが、長崎大学で得た学びと、長崎で出会った人々への感謝を胸に、一人ひとりの患者さんに真摯に向き合う医師を目指して歩んでまいります。迷うことや立ち止まることがあったとしても、ここ長崎で過ごした日々と、支えてくださったすべての方々の存在を胸に、医師として誠実に歩み続けていきたいと思えます。

最後に、これまで支えてくださったすべての方々への深い感謝を申し上げるとともに、長崎大学医学部のますますのご発展と、長崎の地の医療のさらなる充実を心より祈念し、卒業生一同を代表して答辞とさせていただきます。

令和8年3月25日

令和7年度 長崎大学医学部医学科  
卒業生代表 澤本 彩